



新年がスタートしました。午年にちなんで「馬の耳に念仏」ということわざについて、聾学校の中学生と話をしました。そのことわざの意味を確認すると「やっぱり人の話をきこうとする姿勢が大事だね！」という頼もしい言葉が返ってきました。これは、きこえに関係なく大切なことですが、特にきこえにくさがあれば、なおさら、きこうとする姿勢が情報獲得のための大きな鍵になってきます。新年早々、生徒と交わした何気ない会話ですが、とても大切なことなので、皆様にもお届けいたします。

さて、聾学校では一側性難聴のお子さんも支援しております。先日、本校で一側性難聴のつどいがあり、以前鹿児島市立病院で勤務されていた言語聴覚士の下荒さん（現メドエルジャパン勤務）が保護者向けにお話をしてくださいました。当事者であり医療機関でも臨床経験のある下荒さんのお話に参加者は真剣にききいていらっしゃいました。今回は、下荒さんの話を要約したものを記載します。是非ご一読の上、参考にさせていただけたら幸いです。

一側性の難聴（SSD）で生じる四つの影響

両耳加重効果の低下	片耳のきこえを「1」とすると、両耳では「1+1=2」以上の「3」の効果が得られる。SSD ではこの効果が得られず、音を小さく感じたり、言葉をはっきりとききとりづらくなったりする。
方向覚の低下	名前を呼ばれているのは分かるが、方向が分かりにくく、周囲を探すことが多くなる。
スケルチ効果の低下	健聴者はききたい音と雑音を脳で分けてきくことができるが、SSDではそれが困難になり、教室や人混みなど雑音の多い環境でのききとりが特に難しい。
頭部陰影効果の影響	音が難聴側から入ってくると、頭が障害物となって反対側の耳に届きにくくなり、気付きにくい。

また、セルフアドボガシー（自己権利擁護）という力も大切になります。片耳がきこえないということを自分の個性として受容できるかどうか、また、その個性を周りに自分でどう伝えていくのかというものです。子供によって差はありますが、「なんで私は耳がきこえないの」と親にきいてくるときがあります。そのときに「ごめんね」と謝らないでください。母親が謝るということは「きこえない自分はダメなんだ」と感じてしまい、その言葉から自己嫌悪に陥ってしまいます。質問をする子供さんの気持ちを丸ごと受け止めていただけたらと思います。

私は、幼少期、友達の前で自分のきこえについて話す練習をしていなかった中で中・高生で苦勞をしました。幼少期からSSDの個性を親子で共有し、保護者の皆様には最低限の配慮を行ってほしいと思います。



一側性難聴には両側難聴児と同様の配慮に加えて、一側性難聴児ならではの困難さに対する配慮が必要であることが周知されています。また心理面への対応として、同じ立場で共感しあう「ピア・カウンセリング」の有用性も示唆されています。聾学校でも、令和2年度から『一側性難聴のつどい』を年数回、開催しております。今年度、最終回は2月25日（水）10:00～12:00に開催予定です。

参加希望の方は、聴覚相談センターまでご連絡ください。

※ 参考：片耳難聴者のコミュニティサイト「きこいろ」…たくさん情報発信されています！

鹿児島県立鹿児島聾学校

代表 TEL 099-228-2200 FAX 099-228-2211

聴覚相談センター（外園）

【直通】TEL 099-228-2300 FAX 099-228-2311

お気軽に ご相談ください(^_-)☆

★ 相談は無料です。

★ 相談内容に関する秘密は厳守します。

★ 全ての支援事業は聾学校への就学を勧めるものではありません。